

b-26) サンコウチョウ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000年12月)」⁶⁾に絶滅危惧II類種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、日本では、4月下旬～9月下旬まで夏鳥として渡来し、本州以南、四国、九州、沖縄県で繁殖する¹⁷⁾。佐賀県内では、黒髪山系、経ヶ岳、脊振山系⁶⁾における記録がある。

平地から標高1,000m以下の山地の暗い林に生息する¹⁰⁾。沖縄ではマングローブ林内にも多い¹⁷⁾。樹上性で、二足とびで枝から枝へ移動する¹⁷⁾。林内に飛んでいる昆虫を空中で捕える¹⁰⁾¹⁷⁾。つがいで縄張りを持ち、巣立ち後しばらくは家族群で行動し、時々カラ類の混群にも入る¹⁰⁾。

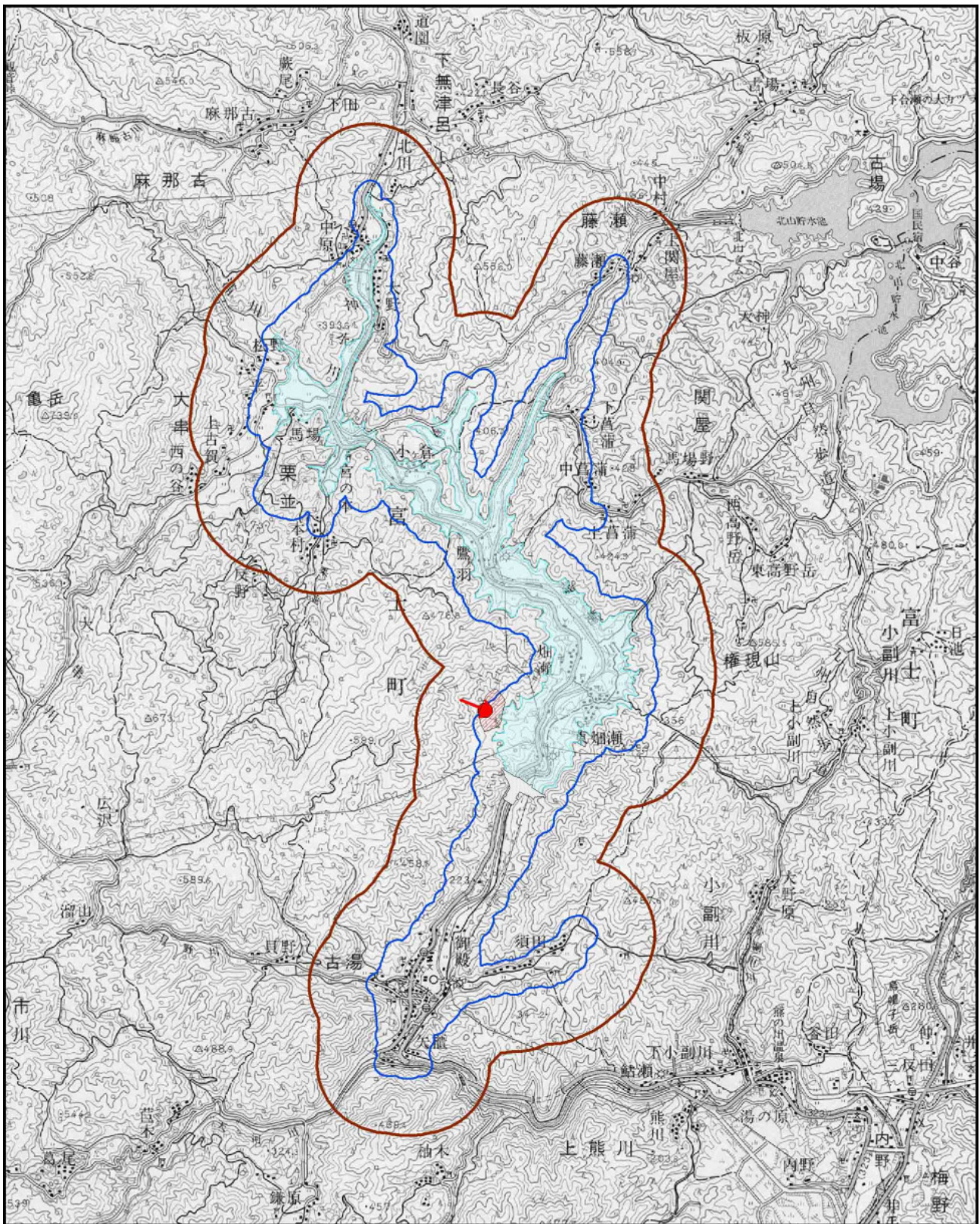
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-4(16)に示す。

本種は、重要な種を対象とした平成15年度の調査において、6月上旬に畑瀬地区で雄の鳴き声が確認された。また、6月中旬の調査時には雌の飛翔と巣が確認された。



確認地点の環境は、沢筋の樹林で、周辺の樹林はスギ植林、広葉樹林及びアカマツ林が接するモザイク状の環境であり、営巣はスギ植林で確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、畑瀬地区の西畑瀬周辺で繁殖し、周辺の暗い樹林を採餌環境として利用していると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  : 確認地点
-  : 確認地点



1:50,000

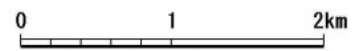


図4.1.5-4(16)
サンコウチョウ確認地点

c) 両生類・爬虫類の重要な種

両生類・爬虫類の重要な種の確認状況を表 4.1.5-12 に示す。

表 4.1.5-12 両生類・爬虫類の重要な種の確認状況

目名	科名	種名	確認方法	確認年度
サンショウウオ	サンショウウオ	ブチサンショウウオ	捕獲	平成 6 年度、11 年度、13 年度、15 年度
カエル	ヒキガエル	ニホンヒキガエル	捕獲、文献による記録	平成 6 年度、11 年度、13 年度、15 年度
		アカガエル	タゴガエル	捕獲
	アカガエル	ヤマアカガエル	捕獲	昭和 60 年度、61 年度、平成 11 年度、13 年度、15 年度
		トノサマガエル	捕獲、目撃、文献による記録	昭和 60 年度、61 年度、平成 4 年度、6 年度、9 年度、11 年度～15 年度
	アオガエル	シュレーゲルアオガエル	捕獲、文献による記録	昭和 60 年度、平成 6 年度、11 年度～14 年度
		カジカガエル	捕獲、目撃、鳴き声、文献による記録	昭和 61 年度、平成 6 年度、11 年度、14 年度、15 年度
カメ	イシガメ	イシガメ	目撃	平成 6 年度
	スッポン	スッポン	目撃	平成 6 年度
トカゲ	ヘビ	ジムグリ	目撃、捕獲	昭和 60 年度、平成 6 年度、11 年度

c-1) ブチサンショウウオ

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に準絶滅危惧種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州の近畿(京都を除く)、中国、四国、九州の山地に分布²⁰⁾する。

佐賀県内では、脊振山系(基山～九千部山～脊振山～佐賀市金立山～雷山～富士町山端～作礼山～浮岳～天山)、多良岳、国見山のアカガシ等が茂る二次萌芽林内の源流域⁶⁾における記録がある。

主に常緑広葉樹林、混交林に生息し、源流近くで繁殖²⁰⁾する。繁殖期は3月下旬～5月下旬で、産卵数17個～36個²⁰⁾である。幼生は産卵された年の8月中旬～9月下旬ないし、翌年に変態する²⁰⁾。

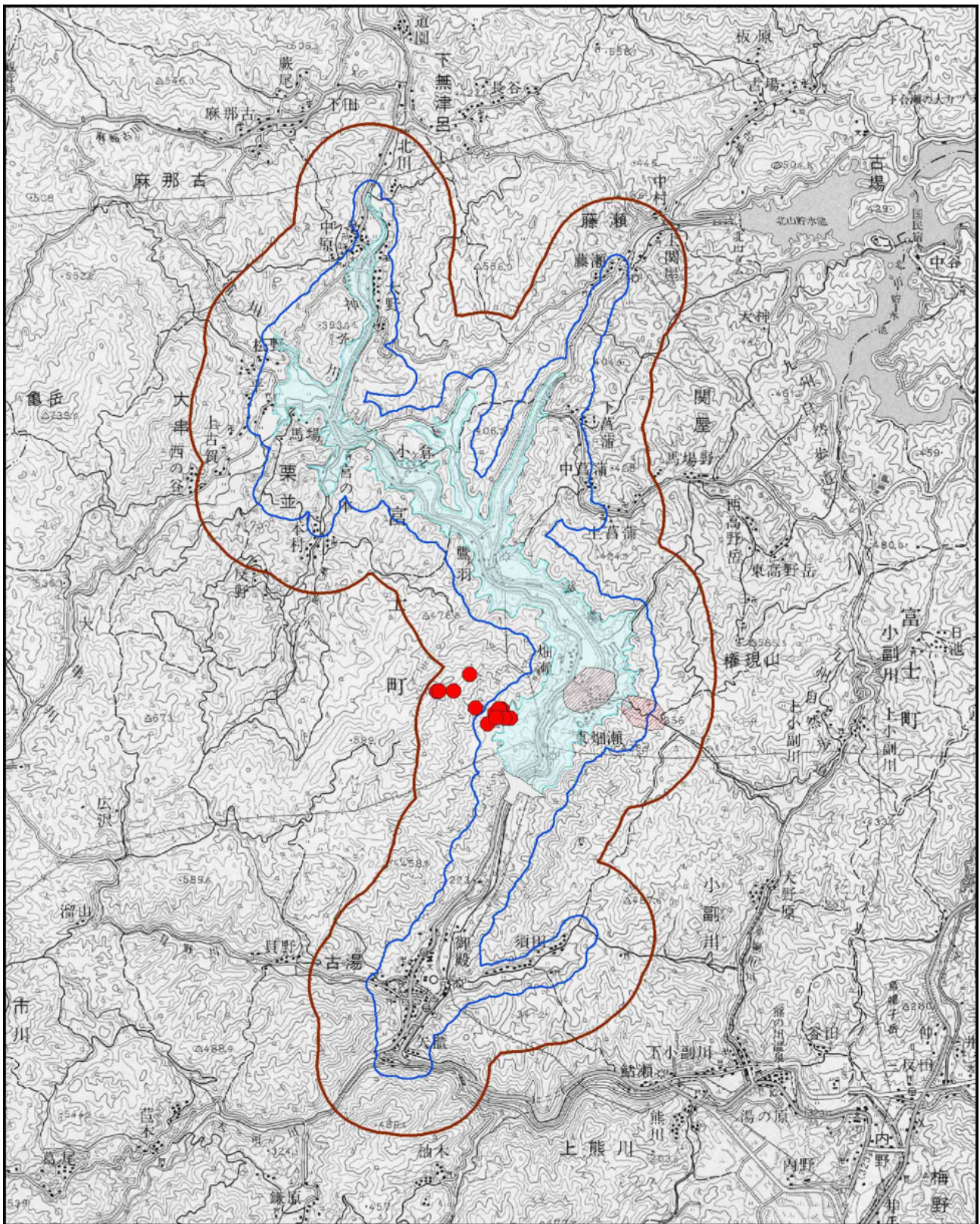
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-5(1)に示す。

本種は、平成11年度、13年度及び15年度の調査において、畑瀬地区の西畑瀬集落南西の山間部13地点で生息が確認された。また、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度に畑瀬橋付近及び東畑瀬集落南東の林道付近において確認された記録がある。このほか、専門家への聴取により、本種は、調査地域周辺部において広範囲に生息しているとの情報を得た。



確認地点の環境は、沢、朽ち木の下等であり、成体、幼体及び幼生が確認された。調査地域の上流部(標高360mより上流)では、産卵期前に沢に集まった成体が確認されており、この周辺が本種の産卵場であると考えられる。なお、平成6年度に確認記録のある畑瀬橋付近及び東畑瀬集落南東の林道付近で、平成15年度に調査を実施したが本種の生息は確認されず、現在は主な生息地となっていないと考えられる。

生態情報及び確認状況から、本種は、当該地域において、畑瀬地区の西畑瀬集落南西の山間部に局地的に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  } : 確認地点
-  *



1:50,000

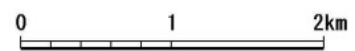


図4.1.5-5(1)
ブチサンショウウオ確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

c-2) ニホンヒキガエル

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

ii) 生態

本種は、近畿地方より西の本州、四国、九州²⁰⁾に分布する。佐賀県内では、佐賀郡富士町鷹ノ羽、佐賀郡富士町古場岳キャンプ場、東松浦郡七山村池原檜原湿地、東松浦郡巖木町作礼山、東松浦郡玄海町新田、東松浦郡鎮西町馬渡島²¹⁾における記録がある。

海岸近くの低地から高山まで幅広い環境に生息²⁰⁾する。変態直後の幼体は落ち葉のあいだで、トビムシやササラダニ等、人間の目にとまらないような微小動物を食べる²⁰⁾。成体は、オサムシ等の地表性昆虫、落下したセミ、ミミズ、カタツムリ、ヤスデ、サワガニ等をよく食べ、時には小さなヘビを食うことさえある²⁰⁾。しかし、基本的にはアリのような小型の餌を多量に食う傾向が強い²⁰⁾。池、溝、湿地、水田、路傍の水溜まり、岩の窪みの水溜まり等の止水で繁殖する²⁰⁾。繁殖は毎年、決まった場所で行われるが、それはそれぞれの個体が成育した場所である²⁰⁾。繁殖期は10月～5月、卵数は6,000個～1万4,000個²⁰⁾で、短期繁殖型²⁰⁾である。

iii) 調査結果

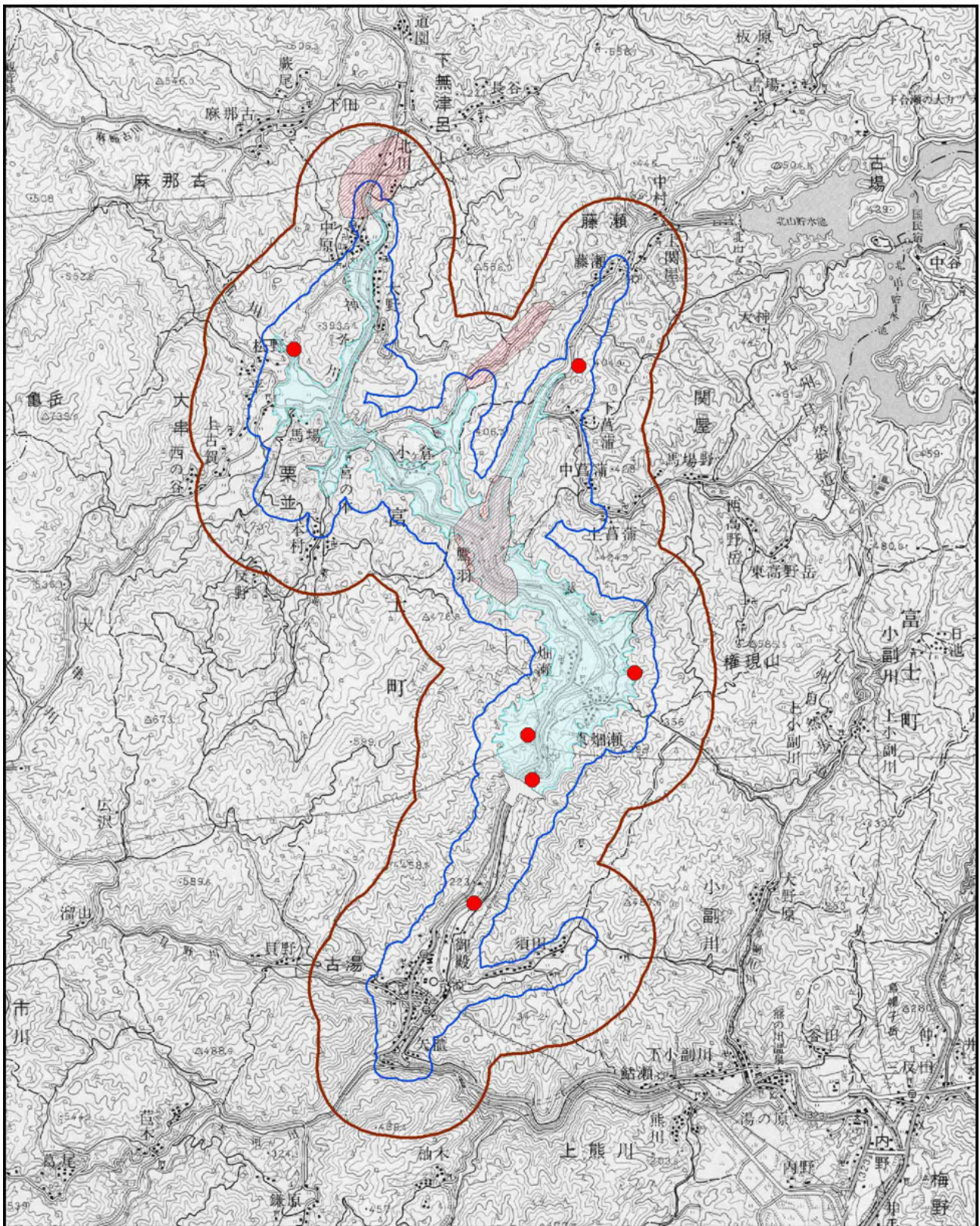
調査による確認地点を図4.1.5-5(2)に示す。

本種は、平成11年度及び15年度の調査において、大野地区の浦川橋北の耕作地1地点、関屋地区の権現山西の山間部1地点、畑瀬地区の西畑瀬集落南の沢1地点、嘉瀬川の御殿集落周辺1地点、合計4地点で生息が確認された。また、平成15年度の環境巡視において、関屋地区の下菖蒲集落北の斜面1地点、嘉瀬川の川上川第二ダム下流1地点、合計2地点で確認された記録がある。こ

のほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成 6 年度に藤瀬集落南西周辺、川上川第三ダム下流付近及び北川橋上流付近、平成 13 年度の環境巡視において確認された記録があり、文献²¹⁾においては鷹ノ羽の嘉瀬川の河原で確認された記録がある。



確認地点の環境は、スギ植林内の林道、混交林、水田等であり、成体及び幼体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、樹林に点在して生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  } : 確認地点
-  *



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-5(2)
ニホンヒキガエル確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。

c-3) タゴガエル

i) 重要性

本種は、「佐賀県の絶滅のおそれのある野生動植物 - レッドデータブックさが - (佐賀県環境政策局環境企画課 2000 年 12 月)」⁶⁾に情報不足種として掲載されている。

また、本種は、専門家により「県内で希少」と指摘されている。

ii) 生態

本種は、本州、四国、九州に分布²⁰⁾する。佐賀県内では、神埼郡脊振村脊振山山頂付近、佐賀郡富士町三瀬峠、佐賀郡富士町羽金山、佐賀郡富士町山端、東松浦郡七山村浮岳、東松浦郡巖木町作礼山、東松浦郡相知町八幡岳²¹⁾及び鹿島市中山キャンプ場から金泉寺²¹⁾における記録がある。

山地に普通に見られる²⁰⁾。林床で生活する²⁰⁾。幼生は伏流水中の水底の泥の中で生活し、白っぽい²⁰⁾。昆虫、クモ、貝等を食べる²⁰⁾。繁殖期は3月～6月下旬²⁰⁾である。小溪流の縁にある岩の隙間や地下にある伏流水中に産卵する²⁰⁾。卵塊は球形で、産卵数は30個～160個と少なく、卵径は2.7mm～3.0mmと大きい²⁰⁾。

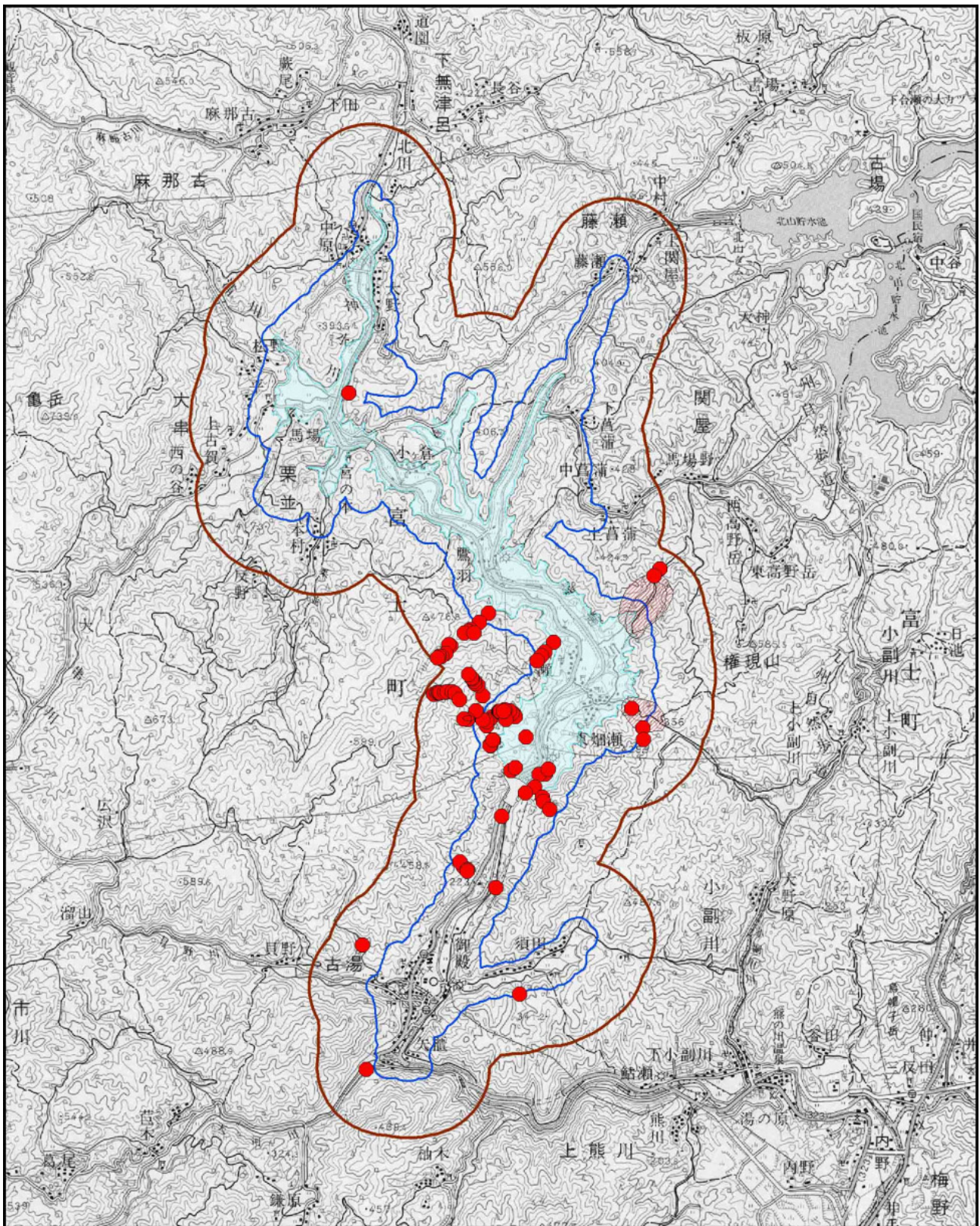
iii) 調査結果

調査による確認地点を図4.1.5-5(3)に示す。

本種は、平成11年度、13年度及び15年度の調査において、大野地区1地点、関屋地区4地点、榎国有林内2地点、栗並地区12地点、畑瀬地区45地点、畑瀬地区南西の国有林内1地点、古湯地区3地点、小副川地区6地点、合計74地点で生息が確認された。また、平成11年度、12年度及び15年度の環境巡視において、畑瀬地区12地点、古湯地区3地点、小副川地区1地点、合計16地点で確認された記録がある。このほか、詳細な位置情報等の記録がないが、平成6年度及び11年度に関屋地区、榎国有林内、13年度及び15年度の環境巡視において確認された記録がある。



確認地点の環境は、沢の周辺であり、周囲の植生はスギ・ヒノキ植林や混交林であった。また、成体及び幼体が確認された。

生態情報及び確認状況から、本種は、確認地点付近の樹林に生息すると考えられる。



凡 例

-  : ダム堤体
-  : 副ダム
-  : 貯水予定区域
-  : 対象事業実施区域
-  : 調査地域

-  } : 確認地点
-  *



1:50,000

0 1 2km

図4.1.5-5(3)
タゴガエル確認地点

*: この範囲内で確認した記録がある。